

# わが街で暮らす

諏訪市地域医療・介護連携推進センター

ライフドアすわの取り組み

地域包括ケアシステムを支える人々

諏訪赤十字病院は、がん医療・救急医療を中心に諏訪地域の医療を支えています。

高齢化社会の進展に伴い高齢者が生命の危機的状態に陥り救急搬送されてくるケースが多くなっています。高齢者自身は意思表示できない場合がほとんどであり、時間的猶予がない中で生命に直結する重要な治療の選択を「患者ではなく家族」が求められます。突然のことで判断材料も十分に整理できないまま侵襲の大きな治療を選択する場合があります。治療を選択した家族の方もその選択がよかつたのかとの葛藤を伴います。人生の終末期の選択が本当にこれよかったのだろうかと思慮者も葛藤を感じる場合があります。本来いちばん尊重すべきは、ご本人がどのような治療を望むかということですが、それを『代弁できる家族の文化』はほとんど根付いてい

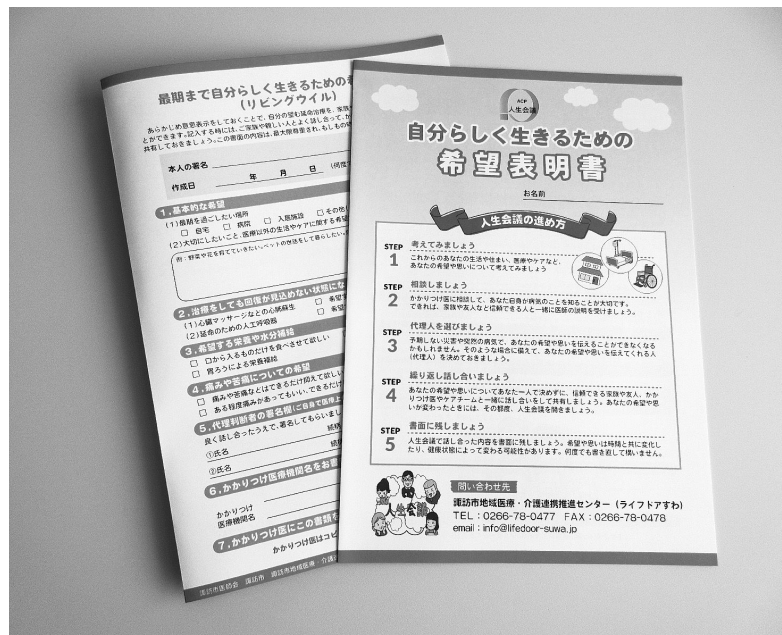


ないと感じています。本人の意志を代弁するには、その人は何が好んで、どんなことを大切にしたいか、どんな風に生きていきたいのかなどを家族や信頼する方々との対話の中で紡いでいくことが必要です。本人の意志を尊重した医療の提供や人生の最期の迎え方を検討するアプローチとしてアドバンスケアプランニング（以下ACP）があります。ACPについてはライフドアすわでも何年も何回も市民を対象とした講演会などで周知を行ってきました。

## 諏訪赤十字病院 看護副部長

いけがみ ゆみこ  
池上 由美子

# ACPの必要性



自分らしく生きるための希望表明書

そして諏訪市では「自分らしく生きるための希望表明書」が作成されています。書くことが目的ではなく、対話のツールとして利用していただくものです。人は必ず死を迎えます。人生の最期の選択を周囲に迷惑をかけることなく自

分の責任として引き受けていくためには、以下のようなACPプロセスが理想であると考えます。  
①年令に関係なく、健康な人が自分の生き方を考える生涯教育として機会を設ける  
②何らかの病気になった時、日

常生活の中で自分らしい人生とは何かを考え、周囲と対話する  
③入院の際には、地域で紡いだACPを活用し治療の選択をする。

④入院中にACPを見直し、退院の際に再び地域に繋いでいく。  
当院に通院中の慢性疾患の患者さんに「自分らしく生きるための希望表明書」を紹介させていただく機会がありました。大切なことだと受け止めてくださる方もおります。医療者として患者さんに同意を得ながら対話するきっかけ作り、少しでもACPが地域に根付いていけるよう努めていきたいと思えます。

「自分らしく生きるための希望表明書」設置場所

ライフドアすわ（諏訪市医師会館1階、高齢者福祉課（市役所2階）、社会福祉協議会（湯小路いきいき元気館 保険センター）、市内の医院・病院、市内の調剤薬局

次回は12月8日掲載予定